

福岡赤十字病院外来診察担当医一覧表

○新患及び再来 ●予約のみ △午後新患(予約のみ) ▲午後再来(予約のみ) ※再来は原則予約制です 令和6年1月1日現在

科別	氏名	微	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名
総合診療科	川本 徹		○	○	○	○		内科一般	副部長
	総診当番医師①		○	○	○	○		※当番医：内科系医師による交替制	
	総診当番医師②		○	○	○	○			
消化器内科	青柳 邦彦			▲	○			消化管 (食道・胃・小腸・大腸)	院長補佐
	平川 克哉				○				副院長
	工藤 哲司								副部長
	冬野 雄太	▲				○			
	押領司祐貴子								
	内海 聡志	○			▲	▲			
	飯田 篤					▲	▲		
肝臓内科	樋口 裕紀				▲				
	西澤 新也	○			○			肝・胆・膵疾患一般	部長
	岩下 英之		○	○					副部長
腎臓内科	東 具隆							腎臓	
	楊 晃慶								
	徳本 正憲	▲		○					部長
	中井 健太郎	○	▲						副部長
	中川 兼康	▲	○						
	原 雅俊		▲		○				
	井上 めくみ					○			
糖尿病・代謝・内分泌内科	上原 景太郎			▲				糖尿病、代謝、内分泌、生活習慣病 ※内分泌新患は火・水・金のみ	
	大賀 健司								
	奥 美裕								
	佐々木 伸浩		○			○			部長
	井元 博文	○		▲	○				副部長
	豊永 雅恵				▲				
	於久 真由美	●		○					
循環器内科	東木 孝太			●	●	▲		糖尿病、代謝、内分泌、生活習慣病 ※内分泌新患は火・水・金のみ	
	西崎 愛佳		●		●				
	糖尿病担当医師					●			
	内分泌担当医師		○			○			
	中川 瑞穂		▲	▲	▲	▲			
	向井 靖		○	○	○			循環器	部長
	松川 龍一	○			▲				副部長
高血圧内科	松浦 広英		○	▲				循環器	副部長
	小河 清寛				○	▲			
	徳留 正頼			○					
	河合 俊輔	○							
	岡原 有秀					○			
	岡部 浩祐					○			
	佐田 政司		▲						
呼吸器内科	木佐貫 洋志							呼吸器一般	
	原 彩乃								
	古賀 瑛一								
	加筆 圭佑								
	大坪 俊夫	○						高血圧	部長
	中垣 憲明	○		○					部長
	木村 信一		○			○			
血液・腫瘍内科	鷺尾 康圭				○			血液疾患一般 固形腫瘍の化学療法	
	安藤 裕之	○							
	櫻井 優子								
	谷本 一樹		○		○				部長
	平安山 英穂			○					部長
	河野 一郎	○							副部長
	次郎丸 高志					○			
脳神経内科	北山 次郎	○			▲			神経一般	部長
	緒方 利安		▲			○		脳血管障害（脳卒中）	部長
	岡田 卓也			▲		○		神経一般	
	中島 弘淳	▲		○					
	金沢 信		○			▲			
	井上 靖	▲	○	○					
	田中 淳		○	●	○				部長
膠原病内科	齋藤 留晴	▲	△			△		膠原病 ※紹介予約は火・金の午後のみ	
	石丸 敏之		○			○		感染症一般 ※金は紹介患者のみ（13時～15時受付）	副院長
	藤古 直子								
	大石 涼								
	中房 祐司		○						院長
	永井 英司		○			○			副院長
	本山 健太郎	▲			○				部長
感染症内科	小島 雅之		○			○		腎移植外科	部長
	上田 純二						○	呼吸器外科	部長
	井上 重隆		○		○			消化器外科、肝胆膵外科	部長
	小倉 康裕		○		○	○		消化器外科	部長
	三好 圭							消化器外科、肝胆膵外科	部長
	亀田 千津			○	○			呼吸器外科	部長
	安井 隆晴		○					消化器外科	部長
外科	松田 圭央	○			○			消化器外科、肝胆膵外科	部長
	服部 正見	○	▲	○	▲	○		乳腺・内分泌外科	部長
	松永 壮人					○		消化器外科、肝胆膵外科	部長
	森 瞳美		○	○	○	▲		乳腺・内分泌外科	部長
	中島 陽平	○	○						
	太田 耕二								
	桜 朱梨								
(緩和)心臓血管外科	長澤 慶成							緩和ケア	副部長
	山崎 章生				▲	▲			
	宮本 和幸		○		○				部長
	中田 悠介		▲		▲				
	継 仁	○				○		脳腫瘍	部長
	吉岡 努					○			部長
	満田 尚樹		○						
	入江 由希乃								

科別	氏名	微	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名
皮膚科	竹下 弘道		○	○	○	○	○	一般、尋常性乾癬	部長
	西村 美紅		○	○	○	○	○	アトピー性皮膚炎 ※月は10時まで、再診は完全予約制	
眼科	山口 宗男		○	○	○	○	○	糖尿病性網膜症	副部長
	八坂 裕太		○	○	○	○	○	白内障、緑内障	
	非常勤医師		○	○	○	○	○	※火・木は10時まで	
整形外科	泊 真二						○	脊椎・脊髄外科	副院長
	池村 聡				○			関節外科	部長
	加藤 剛				○			脊椎・脊髄外科	部長
	由布 竜矢				○			膝関節・脊椎外科・一般	部長
	安原 隆寛				○			手の外科・外傷・一般	
	齊藤 武恭				○				
	竹内 龍平				○			外傷・一般 ※木は10時まで、火は手術日です	
産婦人科	青木 秀規				○				
	橋詰 惇				○				
	西田 真 婦						産		部長
	遠城 幸子				婦		産		部長
	和田 智子				産		婦		
	清崎 洋一郎						産 婦		
	吉田 純子				産		婦		周産期 悪性腫瘍、良性腫瘍 腹腔鏡手術 ※火・木は10時まで
小児科	吉田 優						産 婦		
	中村 友里恵								
	古賀 万里子								
	古里 美慧				婦		産 婦		
	久富 恵理香				産		婦		
	田中 桜子				婦		産		
	江崎 慈萌				産				
(神経)循環器再来	担当医師				産 婦	産 婦	産 婦	産 婦	
	波多江 健				○	○		腎疾患	部長
	長友 太郎				○			新生児	部長
	山口 賢一郎				○			循環器	部長
	黒木 理恵				○			腎疾患	副部長
	鷺尾 真美							一般・腎疾患	
	米元 耕輔				○			神経	
耳鼻咽喉科	江口 祥美				○			循環器	
	非常勤医師				○			神経	※予約制、午前のみ
	非常勤医師							循環器	※予約制、午後のみ
	高岩 一貴				○			耳科学 耳鼻科一般 水は第2・4のみ	部長
	藤村 晶子				○			水は第1・3・5のみ	
	高良 佳江				○			木は第1・3・5のみ	
	小出 彩佳				○			木は第2・4のみ ※火・木：通院受付10時まで ※火・金：紹介患者のみ	
形成外科	犬塚 古子				○	○		再建外科、皮膚科腫瘍、先天性疾患、顎顔面形成外科一般	部長
	前場 崇宏				○				副部長
	浅部 浩明				○			形成外科一般	
泌尿器科	清島 圭二郎				●	●	○	尿路結石	部長
	秋武 正和				○		●	排尿機能障害	副部長
	澄川 涼太				○	●	●	尿路感染症	
	森原 楓				●			尿路性器腫瘍	
	中野 康弘							腹腔鏡手術	
	非常勤医師							ロボット手術	
	非常勤医師								
精神科	芝田 寿美男			●	●	●	●	一般・行動療法・強迫性障害	部長
	非常勤医師				●	●	●	※完全予約制、月・水・金のみ新患も診察 ※火曜日は夜間2週	
歯科・歯科口腔外科	丸瀬 靖之			○	○	○	○	一般歯科、口腔外科	副部長
	伊東 美穂			○	○	○	○	※再診は完全予約制	
	松村 万由			○	○	○	○		
	松尾 芳雄								部長
	樋口 貴太郎								
	新堀 裕子								
	高瀬 華恵								
放射線科(診断)	古城 友梨枝							検査依頼（CT・MRI・RI等）のみ 電話予約制	
放射線科(治療)	木村 正彦		●	●		●		放射線治療	部長
	非常勤医師		●						
	生野 慎二郎								部長
	迎 雅彦								部長
	中西 洋太郎								
	清水 友理								
	丹羽 紗耶加								
麻酔科	川口 貴太郎							術中管理	
	佐々木 繁								
	畠中 麻衣								
	小山 祐美子								
	高木 柚李								
	西山 薫一								
	峰 真理								
病理診断科	友尻 茂樹							人体病理一般	部長
	荒武 憲司							検体検査管理	副部長
	皆川 雄郷								
	弓削 理絵								
	救急科							救急（各種中毒疾患含む）	部長
	健診部								副部長
	大坪 俊夫							人間ドック・健康診断	部長

●受付時間 8時10分～11時00分（診療開始 8時40分）			
※診療科の備考欄に特に記載のない場合に限り、ます。			
●急患診療体制			
※救急車や医療機関からの紹介患者の受入れは、24時間体制で対応いたします。			
内科系	平 日	17時00分～23時00分	
	土・日・祝日	8時30分～23時00分	
小児科	土（祝日除く）	9時00分～17時00分	

●休診日 土・日・祝・年末年始（12/29～1/3）
※出張等で休診する場合がありますので、事前に各診療科にお尋ねください。

担当医表は随時更新される場合がありますので、最新情報は右記のQRコードよりご確認ください。



☎0570-03-1211





新年のご挨拶

福岡赤十字病院 院長 中房 祐司



新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。
新型コロナウイルス感染症(コロナ)のパンデミックが始まって4年が経過しました。昨年5月にコロナの法的取扱いが5類へ変更になり、世の中の雰囲気が変わり始めました。マスクを着用する人が徐々に減り、夏の気温上昇とともにマスク着用率は一気に下がりました。人々の往来が増え、海外からの旅行者も増加の一途です。一般社会は昨年夏ごろにはコロナから脱却したように感じます。

当院には様々なリスクを持つ患者さん方も入院あるいは通院しておられるため、コロナ対応の緩和はゆっくり慎重に進めています。しかし、最近はインフルエンザやプール熱などが流行したりしています。他のウイルス感染者が数多く出てくる環境ですから、コロナパンデミックは収束と考えても良いのではないのでしょうか。ですから、今年は晴れてポストコロナに向けて大きく舵を切ろうと思います。

まずは、患者会、クリニックの先生方との勉強会、職員の部活動などを元通りに復活させたいと考えています。さらに、昨年再開した産直マルシェやトワイライトコンサートも地域に開かれた病院としてさらに充実させていく方針です。

今、私が最も気になっているのは医師の働き方改革の救急医療への影響です。これまで、医師が昼夜なく病院にいることはある意味で

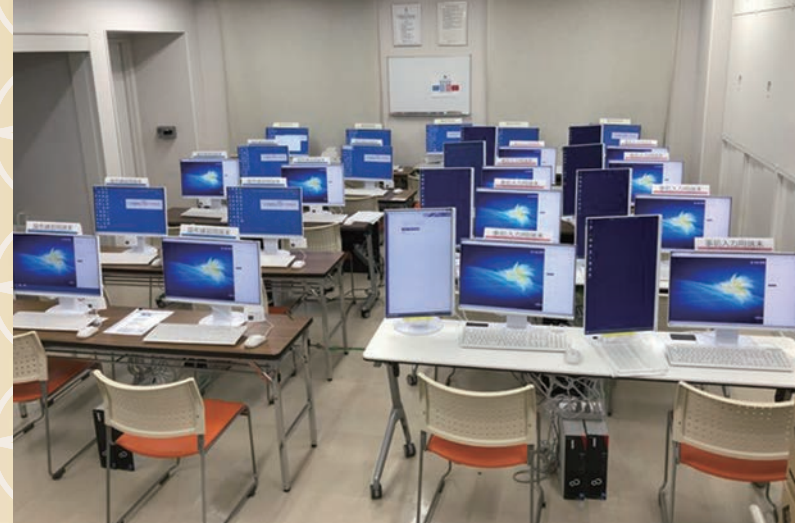
美徳とされてきました。主治医として常に患者さんの近くにいるように教育され、医療現場ではつい最近まで受け継がれてきました。ところが、本年4月から医師の労働時間が法的に制限されることとなります。このため、地域の救急医療を担ってきた救急病院の一部が夜間・休日の救急受け入れを制限する可能性があります。当院は数年前から診療機能を落とさずに時間外労働を短縮させる取り組みを少しずつ進めてきました。また、コロナ禍の救急患者増加に対応して救急受け入れ機能を高めてきました。可能な限り救急要請には応える方針ですが、市中の救急搬送困難事案が増えないことを願っています。

大型の病院では7～8年毎に電子カルテの更新が必要となっています。当院は本年1月1日から新しい電子カルテの使用を開始しました。できるだけ早く使い方に慣れて、皆さまにご迷惑をおかけしないように致します。医療現場では、今後の人材不足に対応できるよう、医療の質や安全性を保ちながら効率性を高めなくてはなりません。このため、医療界のデジタルトランスフォーメーションの推進は極めて重要です。今回の電子カルテ更新を契機に様々な変革を進めていく方針です。

当院はこれからも診療内容やサービスをさらに充実させていきたいと考えています。近隣のクリニック・病院の先生方としっかりと協力・連携を行い、地域住民の方々に安心頂けるような病院運営を行う所存です。

本年も皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

令和6年1月吉日



▲ 操作研修室



▲ 新電子カルテリハーサルの様子

電子カルテ更新のご報告

福岡赤十字病院の情報システム課です。私たちは日頃から、病院情報システムの維持・管理・機能向上を業務としています。病院情報システムとは、電子カルテを中心とした30種類以上もの部門システムが接続している病院内のICT装置全般を指し、現代の病院機能の中核を担っていると言っても過言ではありません。検査、治療など全ての診療をコントロールしているのが病院情報システムです。

現在は2023年12月で、当院は2024年1月1日に新電子カルテに更新予定としています。今は移行作業の真っ只中の状況です。現在の電子カルテが稼働したのは2017年3月ですが、システムやサーバーの耐用年数は約7年であるため、3年以上前の2020年9月には次期システムのコンセプトを検討し始め、2021年4月に電子カルテ更新プロジェクトを立ち上げ、具体的な機能選定を開始しました。今回のシステム更新で特に重視したのは以下の点です。

まず第一に患者さんに役立つ仕組みは積極的に取り入れました。例えば安全な医療のため、バーコードによる本人確認はもちろんの事、薬剤や採血管、医療器材などもバーコードで確認可能とし、安全性を追求しました。さらに体温や血糖値の測定はデータを無線で電子カルテに取り込み、即時にデータを参照できるようにしています。また当院では従来から待合室の混雑や長い待ち時間で患者さんにご迷惑をおかけしているため、その対策として診察の待ち状況を患者さんのスマートフォンに表示するシステムや会計の後払いシステムの導入も予定しています。さらに

近年ではサイバー攻撃のため病院が機能停止する事件も発生していますが、患者さんにご迷惑をおかけせず医療が継続できるようにサイバーセキュリティやデータバックアップの強化も行いました。

次に重視したのは、医療DXの推進です。現在、質の高い医療の実現のため国を挙げて医療のデジタル化が進められています。例えばマイナンバーカードによるオンライン資格確認は保険証の代わりとなるだけでなく、医師が過去の健診や薬剤情報を閲覧可能となります。これにより、より良い医療が提供可能となるため、当院はスムーズに利用できる体制を構築しました。今後は電子処方箋の普及や電子的な診療情報提供などの医療連携も予想され、今後の医療DXを牽引可能な対応力の高い基本システムを選定しました。

これらの目標を実現するために、私たちは国際モダンホスピタルショウや医療情報学会に参加し、どのような最新技術やシステムがあるか、また今後の医療DXの方向性などを勉強してきました。また実際に新しい技術を導入している病院を訪問し運用の実際やその効果を教えてもらいました。コロナ禍で外出が困難な時期もあり情報収集には苦労しましたが、皆でアンテナを張り巡らせ多くの最新情報を収集し、最良のシステムが構築できたと考えています。

この原稿が皆様の目に触れる頃には、新しい電子カルテが稼働していると思います。順調な稼働開始を祈念し、皆様のお役に立てる事を心から期待しています。



循環器内科 部長

向井 靖

福岡赤十字病院循環器内科は13人のスタッフで24時間・365日循環器救急の受け入れおよび緊急カテーテル治療が可能な体制で診療にあたっています。連携医療機関からは、HOTLINEを通じて、24時間、直接循環器スタッフに連絡し、コンサルトや搬送依頼を行うことが可能ですし、通常の外来診療は平日毎日新患の受け入れが可能です。年間入院患者数は約1700人であり、そのうち心不全による緊急入院が約280名、急性冠症候群（心筋梗塞や不安定狭心症）による緊急入院が約100名です。冠動脈インターベンションは約400例/年、カテーテルアブレーション約430例/年、植え込み型デバイス約100例/年といった診療規模で、重症患者には機械的循環補助（IABPやPCPS）を含めた集中治療が随時可能です。福岡市内の急性期病院として高度医療を提供するとともに、教育研修・専門医育成施設としても大きな役割を担っています。向井の専門であるカテーテルアブレーションに関しては福岡都市圏随一の症例数を誇ります。県外からの紹介患者も多く、慢性心房細動や心室頻拍ストームなどの難治症例への有効な施術も行っています。2021年度からは新規に心カテ室（1F）を増設し、3つのカテ室が稼働し、より多くの症例、急患に対応が可能な体制となりました。部長の向井、副部長の松川、松浦をはじめ、診療チームとして十分なディスカッション行い、一例一例で最善の治療方針を提供するように努めています。また、地域の先生方、医療機関との密接な連携、風通しの良い関係を構築できており、急性期のみの点ではなく医療が線となってつながり、真に有効かつサステナブルな診療を患者さんに施すことを極めて重要なことと位置付けています。

2020年以降、コロナ禍の窮屈さを感じながらの診療が長らく続きましたが、2023年度は対面形式の学会や研究会、地域連携の会も増えてきました。地域の先生方、他医療機関と有意義な交流が再びできるようになったことは喜ばしいですし、スタッフのモチベーションをあげていく良い機会となっています。臨床の現場で多数発生するクリニカルクエスチョンを自ら研究的視点で解決しようとするリサーチマインドも大切にしています。2023年3月に

これからの循環器治療について

アンギオグラフィ機器更新



福岡で4年ぶりに対面形式で開催された日本循環器学会学術集会(JCS2023)ではシンポジウム等を含め20演題を発表しました。若手医師、メディカルスタッフも参画し、大変良い刺激となりました。国際学会（ESC、AHAなど）にも多数の臨床研究の成果を発表するとともに、英文の原著論文・症例報告も毎年複数出版しており、当科から世界に向けて情報発信をしています。

最後に、地域の先生方、医療機関の皆様にはいつもご高配賜りまして感謝申し上げます。引き続き地域の皆様に信頼される医療を提供できるよう、スタッフ一丸となって努力して行きたいと思います。本年も変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責 向井）



“医療を支える医療技術部門”

今回は、ICU（集中治療室）をご紹介します！



ICU（集中治療室）は、急性期の重症患者における診療の補助や看護を行っている病棟です。ここでは、ICU看護師が役割として担っている、カテーテル治療中の看護についてご紹介します。

カテーテル治療中の看護は、清潔野へ物品の展開や薬剤準備などの診療の介助以外に、患者の呼吸状態や循環動態の観察を経時的に行い、医師と情報を共有しながら安全に検査、治療が進むよう補助します。カテーテル治療は手技の

繊細さや重要臓器への直接的なアプローチ故に、病状が大きく変化する場合もあり、予測性を持った観察とアセスメント能力が求められます。重症患者の看護に精通しているICU看護師の観察力、アセスメント能力はこのような精密性の高いカテーテル治療を支え、ICU看護師が診療介助を担う意義といえます。また、治療前の患者の不安は大きく、心理的な援助は看護師の重要な役割の一つです。状態変化によって発症する呼吸苦、胸痛、嘔気などの症状をいち早く緩和し、ニーズを満たし、患者に寄り添う看護を実践しています。

さらに、カテーテル治療では、医師や看護師の他に多くの職種や、部署に関わります。多職種や関連部署との連携は円滑な治療に繋がります。本年度は、カテーテル室の多職種と救急部が協力し、カテーテル室急変時シミュレーションを行いました。日頃より多職種とコミュニケーションをとり、互いに信頼関係を築くことで、安全で円滑なチーム医療を提供することに繋がっていると考えます。引き続き、チーム一丸となって、安全・安心な高度医療の提供が行えるよう努めて参ります。



地域とともに！

登録医紹介

当院の基本理念である「信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

つちや内科循環器内科クリニック

Q 開設までの経緯

1990年福岡大学医学部第二内科（循環器・腎臓内科・呼吸器内科）へ入局し、大学勤務時代は、循環器疾患の急性期治療・集中治療室での心不全・不整脈治療・全身管理を学び、虚血性心疾患のカテーテル検査・治療を主に担当しました。南区の医療に初めて御縁をいただいたのは1992年に非常勤医師として佐田内科循環器医院（現在閉院）へ勤務した時でした。

2003年米国Columbia University Medical Center; Cardiovascular Research Foundation へ留学。2008年から、おおし内科循環器科医院副院長を経て、2015年に現在のつちや内科・循環器内科クリニックを開院しました。

Q 専門分野

大学勤務時代は循環器疾患、特に虚血性心疾患を専門に診療しました。これまでの経験を活かし、「心血管疾患・脳血管疾患を発症、再発させない診療」、また、内科医としてプライマリケアも行い、誠実な医療に取り組んでいく所存です。

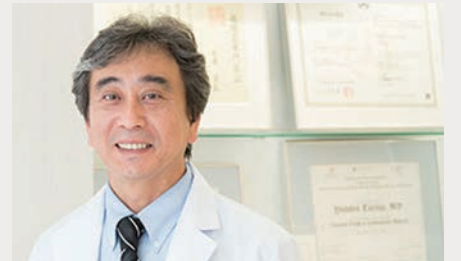
Q 診療体制や特徴

設備としては、「高解像度」「低線量で安全」なデジタルX線検査（DR：Bone suppression機能、経時差分機能付き）、超音波検査装置での心エコー・腹部エコー・甲状腺エコー検査、血管年齢を測定可能な血管脈波検査（ABI）、不整脈診断に欠かせない24時間ホルター心電図、睡眠時無呼吸症候群の診断に必要な簡易睡眠ポリグラフィ検査（PSG）、呼吸機能検査、24時間血圧計、等の医療機器を備えています。

Q 地域の方々へのメッセージ

よく聞き、よく診て、わかりやすく説明する、気軽に相談できる「かかりつけ医」でありたいと思います。現在の診療の待ち人数は、受診前にホームページや携帯電話から確認出来ます、御利用下さい。

福岡赤十字病院をはじめ基幹病院や、近隣の診療所など、他の医療機関との連携を大切にし、患者様の症状に合わせて必要な場合は御紹介いたします。お気軽にお問い合わせください。



院長 土屋 芳弘 先生

住所 815-0033 福岡市南区大橋2丁目2-17
大橋駅南クリニックビル2階

T E L 092-557-1121

診療内容 一般内科・生活習慣病・循環器内科・腎臓内科

呼吸器内科・睡眠時無呼吸症候群・その他

診療時間 9:00～13:00／14:00～18:00

休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日



いとう循環器内科クリニック

Q クリニック開設まで

私は、1998年に熊本大学医学部を卒業後、九州大学循環器内科へ入局させていただき、九州大学病院、済生会福岡総合病院、地域医療機能推進機構九州病院（旧九州厚生年金病院）で、臨床トレーニングを積んで参りました。その経験をもっと身近な医療の中で提供し地域の皆様の健康長寿に貢献したいと思い、2020年9月に開業致しました。

Q 専門分野・診療体制

循環器専門医資格のほか、高血圧専門医、超音波専門医資格を活かして、大学病院や基幹病院では、高血圧専門外来を担当し、心エコー（心臓超音波検査）主任として研鑽を積んで参りました。その経験を身近な医療のなかで提供したいと考えています。心エコー検査は、院長自ら行いますので、急な胸部症状の患者様にも随時検査を行うことが可能です。

Q 地域の方々へ

高血圧など生活習慣病を放置してしまっている方、“胸の痛み”、“息切れ”、“動悸”などで心臓が心配と思われる方は、どうぞお気軽にご相談ください。スタッフ一同、皆様に安心を感じていただけるクリニックを目指しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 伊藤 浩司 先生

住所 811-1356 福岡市南区花畑1丁目45-34
HANAHATA CLINIC ビル2F

T E L 092-554-1360

診療内容 内科・循環器内科

診療時間 9:00～13:00／14:00～18:00

休診日 木曜午後、土曜午後、日・祝日、夏季（お盆）、
年末年始



あったかドリンクで、ココロもカラダも”ほっと”しましょう

ほっとジンジャーレモン

材料（1杯分）

レモン……1/2～1個
（収穫後農薬がかかっていない国産がオススメ）
生姜……適量
お湯または紅茶……150～180mL



お好みで
ハチミツを入れたり、
レモンの皮を削って
入れるのも◎

作り方

- ①お気に入りのカップを温める
- ②レモンの輪切りを1切れ確保して、
絞りやすいようにカットして種を取り除く
- ③生姜をよく洗い、皮ごとすりおろして
しぼり汁を①のカップに入れる
- ④③のカップにお湯をそそぐ
※やけどしないように慎重に
- ⑤④のカップに②のレモンを絞って果汁を入れる
- ⑥レモンの輪切りを浮かべてできあがり！

ひとくちメモ

身体を温めることで知られている生姜にはジンゲロールという成分が含まれます。ジンゲロールは乾燥・加熱によりショウガオールに変化します。温める効果はジンゲロールよりショウガオールのほうが効果的だと言われています。